

## 1.感想

予てからワーケーションというものに興味はあり、知識として情報は得ていた。

また、これまでも一人ワーケーションなどを実践し、それなりの効果は確認していたが、今回体験したものはそれとは異なるものであり、まさに体験する事でしか得られない気づきを得た。

すなわちそれは、場所、仕掛け、雰囲気成せるものであり、チームで行う事でその効果は何倍にもなる事を実感した。

知識は経験によって知恵になり、その経験は仲間と共有する事で飛躍的に効果的になる。

そうして生まれた知恵が、新しいものを生み出す力になる事を体験できた。

ワーケーションとは、観光地などの仕事とは関係ない場所で仕事を行う程度であり、大々的に行うようなものではないという認識だったが、いつもと違う環境の中で、お互い対面で行う会議室では無い、ディスカッションは非常に有意義であると感じた。

- ・環境がいつもと違うため、様々な新しいアイデアがでてくる
- ・環境が違うと思った以上に集中できる
- ・様々な気づきがある
- ・業務をしながら親睦を深めることが出来る
- ・雑談から生まれる新しいアイデアが生まれる

## 2.気づき

自然の中に身を置く事で、普段の生活の中で知らずの内に縛られているルールやしがらみなど制約から解放され、本来”人”の持つ能力が呼び起こされる。そして五感が研ぎ澄まされ、感性が高まり、ポジティブな創造性が沸き起こると感じた。

環境と象徴的なアイコン(今回は富士山)を前に、その他の情報が制限される為今ここにあるものにフォーカスする事ができ、テーマを思考または議論しようとする時にそこに集中し、議題の核心に迫り本質的な発想が出やすい状態になると感じた。

場の空気を共有する事により、各々の意見の共感を得られやすい状態になる。この事はリモート社会に移行する現代にあって、より良い人間社会の形成の中で重要な視点であり、多様性が尊重される時代の組織づくりにおいて必ず慮されるべきポイントになると感じた。

セッションの中でワークとバケーションの境界についての議論があった。

究極的には「その境が無い状態」で何かを生み出している状態が、最も集中してワークしている状態で、最も生産性の高い状態なのだろうと思った。

バケーションで一生懸命遊ぶことは、本来の自分が求めていることへの”気づき”であり本来の自分を認識した状態で「世界に何が出来るか」を考えて実現していく事が、真の意味で「理念を持って仕事をしている」と言う事になるのだろうと思った。

### 3.ワーケーション活用のアイデア

基本的には、集まったメンバーでのディスカッションを行うことを主体として、各自の業務を行うことで参加をし易くする。

主目的はコミュニケーションを取ることで、コミュニケーションを取りつつ業務を行うことにより、忙しくて終日の参加が難しい人も参加することができる。

- ・テーマを決めて答えを出す
- ・今までにない新しいものを生み出す
- ・忙しい人への慰労になる
- ・企業内で、個人の壁を越え、組織の活性化を促す場として活用
- ・企業と企業の壁を越え、新たなサービスを生み出す創造の場として活用
- ・業界と業界の壁を越え、地域を活性化させる産業を発信する場として活用

### 4.SIIA 事業への展開

次回以降の開催プログラムとしては、まずは SIIA の存在意義や事業についてのアイデア出し等のディスカッションの場として、年に 1 回程度振り返りを行う。

通常の会議やリモート会議だと時間切れになり、議論が煮詰まる前に終了してしまうことがよくあるため、しっかり議論しあえる場となることが良い。

リモートで仕事もできるので、会議は終日とせずに各自の通常業務も行い参加し易くする。

年に 1 回 3 部会で集まって、ディスカッションを行う。

⇒ テーマは「部会の連携・SIIA の存在意義」など

反省しつつ、次年度に活かす活動を行う。

部会参加者の慰労とする。

静岡市内にワーケーションスペースを構築（古民家や廃校後の活用）する。

SIIA 会員で新たな情報産業可能性や地域社会との関りを定期的に議論する。

ワークスペースに他の業界を巻き込む

⇒ 業界の枠組みを超え、情報技術を用いたあらゆる産業を活性化させる新サービスを開発する。

2023年3月17日

NPO 法人静岡情報産業協会

人材育成教育研修部会